

牛久：学校周辺に見る自然

第25号 牛久市観光アヤメ園～牛久城址

2016年2月21日発行

＜ 冬の自然観察 ～牛久沼沿い ②昆虫・クモ ＞

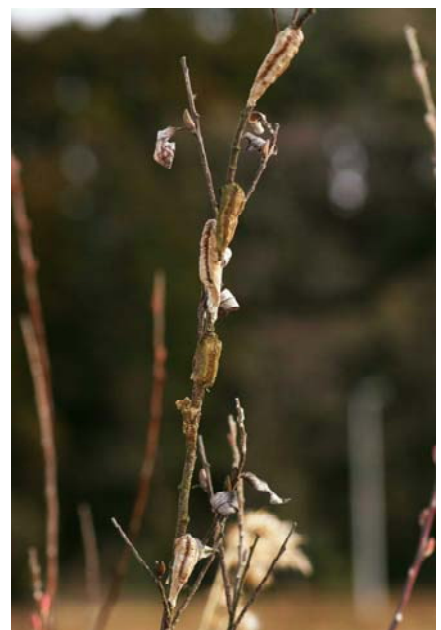
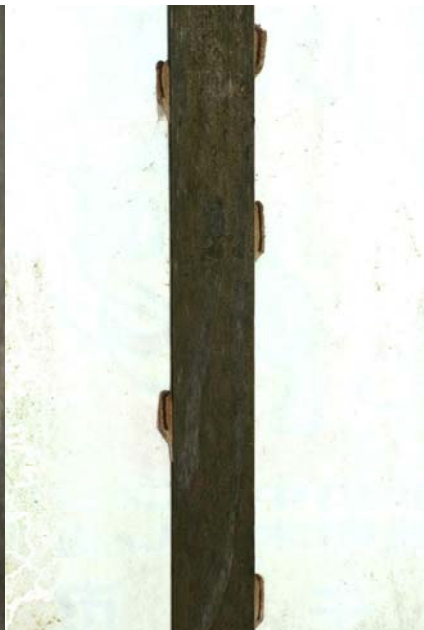
皆さん、こんにちは。冬の牛久沼沿い（アヤメ園～牛久城址）、今回は昆虫・クモの仲間です。この観察コースでは、カマキリの卵のうやミノムシが、たいへんよく目につきました。



さくの割れめをふと見ると、そのせまいすき間にチョウセンカマキリの卵のうがついていました。これなら鳥などの天敵にも見つかりにくいし、よほどの雨風でもない限りこわれることもないでしょう。

さらに歩くと、これが二つ並んでついているものも見つかりました。2つとも、同じメスが産んだのでしょうか？ それとも…。

そしてさらに、4、5、6個と産みつけられたものもを見つけました。



さくの割れめに産みつけられたチョウセンカマキリの卵のうとその拡大(上)。2、5、6個とついたものも(下)。



アヤメ園内ではほとんど全てチョウセンカマキリのものでしたが、少しはなれるとオオカマキリやハラビロカマキリの卵のうもけっこう見つかりました。

オオカマキリ(左)とハラビロカマキリの卵のう(中・右)。



続いて、ミノムシ。大きいものから小さなものまで、形やもようもいろいろなミノムシの仲間を見つけました。

左は、オオミノガのみの。長さ5 cmくらいある、文字通り日本最大のミノムシ。みのは葉のかけらや短い枝などでできていますが、その割合はいろいろなようです。

オオミノガのみの(上2枚)と
チャミノガのみの(下2枚)。



オオミノガは小枝に細くついてぶら下がりますが、こちらは角度をもってやや広くしっかりついていますね。全体の形も違うし、材料も主に長めの小枝が集まっています。チャミノガのまゆです。その他、ミノガのみのも多く見つかりました。



枝の分かれめについていることが多い、イラガのまゆ(左)。右ではその下にチャミノガのみのもついていた。

こちらの卵のような形をしたのは？ 何度か紹介してきましたね。これは卵ではなく、イラガのまゆ。中に入っているのは、前蛹(ぜんよう)とよばれる蛹(さなぎ)の一步手前のイラガ。イラガのまゆやミノムシの仲間は、あまり手入れされていないウメやサクラなどの枝を探すと、見つかることが多いようです。



オオイヌノフグリの花蜜をなめるナミハナアブ(左上)、ナミホシヒラタアブ(右上)、ツマグロキンバエ(中左)、オビキンバエ(中右)。ヒメオドリコソウの花粉や蜜をなめるツマグロキンバエ(下左)。落ちていた枝の樹皮をなめるナミホシヒラタアブ(下右)。

風は冷たいですが陽射しは暖かく、オオイヌノフグリやホトケノザ、ヒメオドリコソウなどがたくさん咲いていました。するとその小さな花々にも、蜜や花粉を求めているいろいろなハエやハナアブの仲間がやってきます。まだミツバチなどには寒くて、活動できないのでしょうか。【理科支援員：宮内】



オオイヌノフグリなどに来ているハエやハナアブをねらう、ウツキコモリグモ(左)。ドロバチの仲間の巣(右)。